

### 1. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告概要表(WAM NET掲載用)

#### カルム箕谷・なごみ介護センター

- 評価実施期間 平成17年10月20日 から 平成18年1月30日
  - 訪問調査日 平成17年12月20日
- 評価機関名 H. R. コーポレーション株式会社
- 評価調査者 G04001 老健施設長代理4年・事業管理・運営16年以上  
 G04002 介護施設看護師長・日本認知症ケア学会 学会員  
 G04005 介護支援専門員・高齢者訪問相談員・看護師
- グループホーム所在地 神戸市北区山田町下谷上字かんじゃ7番3
- 開設年月日 平成 17年 2月 1日
- 定員 ( 2 )ユニット ( 18 )名

○第三者評価結果

◇全体を通して

施設周辺には緑の木々が多く、四季折々の風景を楽しんで生活できる環境にある。交通の便も三宮より新神戸トンネルを抜けると直ぐ、道路の交通量は多いが道路から少し奥まっているため騒音も少なく、安全面への配慮もなされ安心して生活できる。  
 入居者の人格を尊重し、安心して明るく、よりよい暮らしを保持してけるホームをめざす運営方針のもと、職員が入居者が楽しく過ごせるような支援・その人を大切に束縛しない支援を心がけている。入居者個人が本来、持っている固有の機能を大切に、利用者の機能低下予防・身体機能維持ができ、自分らしく過ごせるように筋力トレーニングマシンを活用している。記録類、情報はパソコンで共有できるようにしており、職員間の情報交換がスムーズに行え、入居者への生活支援に活かせていけるよう努力されている。

◇分野・領域別

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化と共有	○	
2	権利・義務の明示	○	
3	運営理念等の啓発	○	

特記事項

入居者の一人ひとりが安心して明るくそして本来の持っている固有の機能を大切に、できるだけ自分らしく過ごせるように援助するという理念のもと、日常的に職員が理念を意識して日々働いている。広報誌による運営理念の啓発はしているが、ホーム便りを作成され地域住民、利用者家族への運営理念の啓発が望ましい。

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
4	馴染みのある共用空間づくり	○	
5	共用空間における居場所の確保	○	
6	入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり	○	
7	身体機能の低下を補う配慮	○	
8	場所間違い等の防止策	○	
9	生活空間としての環境の配慮	○	

特記事項

新築でグループホームとしての利用を視野に入れた作りになっており、居室内は個人の使い慣れた物品の設置がなされ清潔感があり、ゆったりとしている。山間部で冬場の気温が低い為自然な室内の温度設定がなされるよう床暖房などを取り入れている。室外の回廊は歩行訓練、外気浴、高齢者の気分転換に最適であるが、転倒事故予防への配慮が望ましい。居室などの前には、別注の表札をさりげなく掲げているが、今後認知症の進行、視力障害等入居者の状態の変化が考えられることから、個々の状態を見極めながらの検討が望ましい。

Ⅲ ケアサービス			
番号	項目	できている	要改善
10	入居者主体の個別具体的な介護計画		○
11	介護計画の見直し		○
12	個別の記録	○	
13	職員間での確実な情報共有	○	
14	チームケアのための会議	○	
15	入居者一人ひとりの尊重	○	
16	入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア		○
17	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
18	一人のできることへの配慮	○	
19	身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫	○	
20	食事作りへの入居者の参画と一人ひとりにあわせた課題	○	
21	個別の栄養摂取状況の把握	○	
22	食事を落ち着いて楽しむことのできる支援	○	
23	個別の排泄支援と羞恥心への配慮	○	
24	個別の入浴支援と羞恥心への配慮	○	
25	理美容院の利用支援		○
26	プライドを大切に整容の支援	○	
27	安眠の支援	○	
28	金銭管理の支援	○	
29	ホーム内の役割・楽しみごとの支援	○	
30	医療関係者への相談	○	
31	定期健康診断の支援	○	
32	心身機能の維持	○	
33	トラブルへの対応	○	
34	口腔内の清潔保持	○	
35	服薬の支援	○	
36	緊急時の手当		○
37	感染症対策	○	
38	ホーム内に閉じこもらない生活の支援	○	
39	家族の訪問支援	○	
特記事項			
<p>基本情報シートは、カルテ見開きに入っており、緊急受診時に備えてプリントアウトしている。ケアプランの見直しは、定期的に見直しが行えるよう年間計画に組み込まれ実践していくことが望まれる。入居者になじみ深い料理を取り入れたり施設の菜園での収穫野菜も献立にとりいれている。畑作業や収穫物の加工は入居者全ての人に参加し行えている。家族から預かったお金で入居者自身が買い物できるようにしている。認知症の進行に伴い管理のできない方が増えてくると考えるので進行に伴っての金銭管理方法の検討を期待する。緊急時の対応マニュアル作成はなされているが、職員全員が緊急時の対応が出来るよう緊急時を想定した学習・訓練(応急手当)を定期的実施されることを希望する。</p>			

Ⅳ 運営体制			
番号	項目	できている	要改善
40	法人代表者、管理者、職員の協働	○	
41	入居者の状態に応じた職員の確保	○	
42	継続的な研修の受講		○
43	ストレスの解消策の実施	○	
44	退居の支援	○	
45	ホーム内の衛生管理	○	
46	事故の報告書と活用	○	
47	苦情への的確で迅速な対応	○	
48	家族とのコミュニケーション	○	
49	地域の人達との交流の促進	○	
50	周辺施設等の理解・協力への働きかけ	○	
51	ホーム機能の地域への還元	○	
特記事項			
<p>運営理念のもとに法人代表者・管理者・職員がホームでのサービスの質の向上に向かって取り組んでいる。施設長は、日々職員が相談しやすい雰囲気を作りだしているが、職員が何を望んでいるのかを十分把握し、職員の習熟度・経験度に応じた研修計画を立案、実施されることが望まれる。研修を受けることで職員のモチベーションが向上され、職員の定着が期待できると考える。</p> <p>家族が入居者の一番の代弁者であることをホーム側より積極的に伝えることが大切であり、家族会を定期的に設け参加を促し、家族から意見や要望を気軽に伝える事ができる場を設ける取り組みに期待する。地域との交流は地域柄難しいが、行事参加を機会に日常的に近所の人たちに立ち寄ってもらえるような雰囲気作りや交流が持てるよう入居者が地域に溶け込める取り組みに期待する。</p>			

## 2. 認知症高齢者グループホーム 第三者評価報告書(WAM NET掲載用)

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>I 運営理念 1. 運営理念の明確化</b>						
1	1	○			理念は、グループホームの廊下及びスタッフルームの掲示板に掲示している。利用者、家族には入所時に十分説明されている。パソコンの画面背景やスクリーンセーバにも「理念」が表示されスタッフに徹底されている。新規採用時にも説明をしている。	管理者は、豊富な経験の中から、日常的に職員への徹底を行っている。職員ヒヤリングにおいても複数職員に確認することが出来た。
2	3	○			利用相談時及び入居契約時、入居契約書及び重要事項説明書により利用者の権利・義務を明示し、同意を得ている。	
<b>2. 運営理念の啓発</b>						
3	4	○			地域の介護支援センターやボランティアグループ、近隣住民の方々の施設見学希望に親身になって対応し、その中で運営理念を紹介している。広報誌にて運営理念・方針等を紹介している。	広報誌による運営理念の啓発はしているが、ホーム便りを作成され地域住民、利用者家族への運営理念の啓発が望ましい。
<b>I 運営理念 3項目中</b>		<b>計</b>	<b>3</b>			

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり</b>						
4	5	○			共用空間と居室廊下が一体となっており台所で調理している様子が伺えるなど家庭的な雰囲気をかもし出している。居室内は清潔感があり、ゆったりとしている。	室外の回廊は歩行訓練、外気浴、高齢者の気分転換に最適であるが、転倒事故予防への配慮が望ましい。
5	6	○			各フロアの廊下の端に木製のチェアを置き1人または少人数で過ごせるスペースがある。	
6	7	○			テレビ・道具・仏壇など馴染みのものを持ち込まれ個性のある居室になっている。	居室入り口の木製の名札はホーム側が入居者ひとりひとりに合わせ入所時に別注されている。
<b>2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり</b>						
7	9	○			廊下・浴室・トイレには事故予防のための工夫がされており安心して過ごせる配慮がなされている。	フロア全体に、歩行、移動に段差・障害物がなく身体機能低下予防の歩行練習も可能である。
8	11	○			トイレは大きな文字で表示されており、見やすく違和感を感じさせない。	本人の居室の表札は別注のものをさりげなく掲げているが、今後認知症の進行、視力障害等入居者の状態の変化が考えられることから、個々の状態を見極めながらの(文字の大きさ、目線に合わせた位置、表示物の内容など)検討が望ましい。
9	12	○			共有空間は広い窓越しの光で室内は明るく、暖かい。昼間の強い日差しはカーテンで調節している。室温はエアコンのセンサーでコントロールしているため快適な環境で過ごすことができている。職員の会話も静かである。	共有部分のテーブルの下は床暖房になっている。室温はコントロールできているが、乾燥を防ぐために湿度の調整、換気などの配慮が望ましい。
<b>II 生活空間づくり 6項目中</b>		<b>計</b>	6			

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント</b>						
10	15	○			入居時、本人・家族からアセスメントを行い、システム入力している。課題を明確にし個別計画を立てているが、入居者個々の現時点の状況・家族の希望に応じた計画立案が望ましい。	職員全体が関わりの中で、日常的に本人にとっての課題、家族の意見を活かし、より具体的なケアに活かせる計画作成が望まれる。
11	16	○			ケアプランの見直しは、適宜と、状態の変化があったときに行っている。プランの変更・見直しを行ったか、事務部門も協力してチェック機能を作っていくことができればと考える。	見直しは、3ヶ月に1回行いプランの変更がない場合は、見直しの時期を記入し予め設定した時期に見直しを行うようにすることが望ましい。
12	17	○			パソコンのシステムの中に個別記録・アセスメントシートが用意されている。	入居者の経過がパソコン内で常に確認できる体制が取れている。
13	18	○			全スタッフパソコンを操作でき記録類、情報はパソコンで共有できるようにしている。パソコンの配置場所にも考慮している。ソフトは、パッケージ化されたソフトを使用しておりスタッフの使いやすさにも配慮されている。	パソコンの中で、どこからでも連携が取れるようにシステムを作っている。パソコンは、開所当初から導入し職員には違和感はない様子。
14	19	○			日常業務の中で起こる、入居者の課題を解決するため、定期的(月1回)に(重要案件がある場合はその都度)会議を開催している。全員参加は無理であるが、参加者は活発に意見交換している。	業務に支障をきたさないように出来るだけ多くの職員(パートを含む)が参加できるよう事業所が日時の調整をすることが望ましく、欠席の職員へ会議録により伝達される取り組みが求められる。
		○			日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	
		○			介護計画の作成、重要事項の伝達などにすべての職員が関わり、共有ができる仕組みを作っている。	
		○			チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	

項目番号	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
2. ホーム内でのくらしの支援 (1) 介護の基本の実行						
15	20	○入居者一人ひとりの尊重				
		職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○		言葉使いも丁寧で自然な雰囲気ですりひとりに声かけがなされて入る。	
16	23	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア				
		入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○		家族の面会は多く、(アンケート結果でも明らか)面会時に家族からの意見聴取を行うと共に、電話連絡での積極的に情報提供・収集への働きかけが望まれる。	入居者個人の生活歴を十分に把握でき、個人を知るという意味で家族からの情報収集は大切であり過去の経験、趣味を活かす取り組みを期待する。
17	25	○入居者の自己決定や希望の表出への支援				
		職員は、入居者一人ひとりの伝えたいことをしっかり受け止め、入居者が自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(十分に話を聞く、顔を見ての対話、短く分かりやすい言葉、選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○		日常生活の中で、個人の希望、関心事を見極め本人から、言いやすいような対応が来ている。	食事作り、行事の食べ物、野菜作り等、入居者個人の得意分野で自己表出できる機会を作っている。入居者がすすんで調理を手伝おうとすることが多くある。
18	27	○一人でできることへの配慮				
		入居者のペースを尊重した上で、自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○		本人の居室や廊下の掃除、洗濯物たたみなど、職員と共同で行っている。本人のできることに対して見守り、出来ないところを援助している。	食事の配膳・下膳の手伝いや菜園での野菜などの収穫など、参加を積極的に促している。
19	29	○身体拘束(行動制限)をしないケアの工夫				
		身体拘束に関する知識をすべての職員が正しく理解しており、やむを得ず行う場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。玄関の施錠もしない工夫をするなど入居者に閉塞感を与えないよう配慮している。(行動の傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○		運営理念にも示されているが、身体拘束は、行っていない。	その人を大切に束縛しない支援を心がけている。施設の外に1人で強引に行かれようとされる入居者にも本人が納得され施設に帰られるまで見守り、話しかけしながら同行している。

項目番号 第三者 自己	項目	できて いる	要改善	評価 困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(2) 日常生活行為の支援 1) 食事						
20	31	○			食事に繊維質のものを採り入れ季節感のある食材を選び、盛り付けなどにも配慮されている。入居者の体調や思考を考え調理の工夫をされている。行事の献立や誕生日等は別献立にしている。	入居者になじみ深い料理を取り入れ、買い物も入居者と行っている。施設の菜園での収穫野菜を調理している。入居者の好きな食べ物、嫌いな食べ物を日常の会話で聞き取りシステム入力し、それを料理に反映できるように取り組まれている。
21	34	○			入居者の潜在疾患に合わせ食事の量や、塩分の量などに配慮され、繊維質の多い菜園で収穫したの野菜など調理されている。	食事の摂取量から排泄等を含めた体調把握まで管理され、水分摂取量等も記録されている。
22	36	○			スタッフも同席し楽しく会話をしながら、入居者に合わせたペースで食べるように心がけている。	お茶碗等個人個人の好みの食器をつかっている。
2) 排泄						
23	37	○			入居者個々の排泄パターンを把握し記録され、トイレでの排泄に向けての支援を行っている。	個人の排泄状況に応じた介助を行っているが、今後、認知症の進行が予測されることから、失禁による不快感が、高齢者へ与えるダメージを職員全体が認識されるよう期待する。
3) 入浴						
24	41	○			入居者本人の希望にあわせて自分のペースで入浴ができるようにしている。血圧測定をし、本人の健康状態を確認して入浴してもらっている。	バイタルサインに頼らず、複数の職員が確認し入浴の可否を決定され、入浴拒否の入居者は、身体面以外の原因を見極めることが望ましい。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4) 整容						
25	43	○			月1回グループホームに理美容師にきてもらい、入居者の希望に沿ってカット&セットしてもらっている。	画一的な髪型でなく、入居前のその人らしい髪型を大切にされ、馴染みの美容院での整髪が出来るよう、家族の協力を求められる取り組みが望ましい。
		○			入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	
26	44	○			入居者個人の雰囲気大切に、自分の家にいるような格好してもらっている。必要がある場合には周囲に気付かれないような声かけをする等、入居者のプライドを尊重している。	
		○			整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	
5) 睡眠・休息						
27	47	○			本人の自由なリズムを保っているが、どうしても眠れない時には、温かい飲み物を勧めたり、居間でテレビや会話を楽しんでもらっている。	薬に安易に頼るのではなく、昼間気分転換に散歩、買い物に出かけるなどできるだけ体を動かすよう誘導している。個々の睡眠パターンを把握される事が望ましい。
		○			入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	
(3) 生活支援						
28	51	○			医療費や入居者が買いたいものがある場合、日用品は施設で立替えている。家族から預かったお金で入居者自身が使うようにしている。ホームで購入した場合の出納は定期的に家族に報告されている。	認知症の進行に伴い管理のできない方が増えてくると考えるので進行に伴っての方法の検討を期待する。
		○			入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、家族等とも相談して可能な限り日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。ホームが代行管理している場合は定期的に家族に出納状況を報告している。	
(4) ホーム内生活拡充支援						
29	53	○			年間計画に季節ごとの行事を織り込み家庭的な雰囲気を大切に、食事作り、盛り付け、花木・野菜の水やり、廊下の掃除、居室の窓の開閉等、日常的に入居者の能力に応じた役割り、出番を作り出す取り組みがなされている。	認知症の周辺症状予防するためにも一人ひとりに合った楽しみや、役割りを作り出す取り組みを期待する。
		○			ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	



項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
(5) 医療機関の受診等の支援						
30	55	○			健康状態をグループホーム管理システムの個人記録により、職員が把握しており、異常発生時には、24時間体制の同グループである協力医療機関に相談することができる。	入居者、家族により協力医療機関以外の病院等の利用を希望される方にも、協力、支援している。異常発生時には看護師資格を持ったユニットリーダー及び管理者が対応できる体制がある。
31	61	○			入居者が健康診断や、医師の指導を受けられる体制が整っている。定期的に月2回診察実施をしている。歯科の定期受診も行っている。	
(6) 心身の機能回復に向けた支援						
32	63	○			ホームの回廊での散歩、野菜の収穫等を取り入れ、身体機能を維持出来るように取り組んでいる。	認知症高齢者の心理的特徴を理解し不安、混乱が起こらないよう積極的なケアがなされている。現在の取り組みを活かし維持にとどまらず向上できる取り組みがなされることに期待する。
(7) 入居者同士の交流支援						
33	65	○			職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因(体調不良、相性等)を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	入院された入居者のお見舞いに仲の良い入居者を連れて行ったりといった配慮を常に行っている。
(8) 健康管理						
34	67	○			歯科医院から定期的な往診をうけ、義歯の調整などを行っている。食事後や起床・就寝時の声かけ、日常のマウスケアや義歯洗浄の介助等を行っている。	口腔ケアの注意点・要領など医師・歯科衛生士の指導を受けている。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
35	70	○			コンピュータシステムで服薬はデータが管理されており、職員は周知している。 又、個人別に薬箱を設置しており、処方箋も置いている。	入居者個々の既往歴・現病・持病・アレルギーなどについては介護システムの「医療情報」の傷病情報欄にデータが格納され職員は周知している。スタッフルームの中に施錠できる薬の保管用のセットがある。
36	72	○			緊急時の対応マニュアルがあるが、職員全員に周知徹底していない。	職員全員が緊急時の対応が出来るよう緊急時を想定した学習・訓練(応急手当)を定期的実施されることを希望する。
37	73	○			予防摂取を受けたり、うがい・手洗いの徹底をしている。	高齢者は抵抗力、予備力の低下から感染症にかかると心身ともに重症化する可能性が高く、季節的な感染症を含め感染症予防、早期対応に関しての研修会を継続的に実施される取り組みが望ましい。また、事業所として統一された業務手順の作成を期待する。
3. 入居者の地域での生活の支援						
38	77	○			入居者個人の状態に応じ、希望を取り入れ、外出する機会を積極的に設けている。	入居者の散歩・買い物のコース、安全性を職員が確認して、日常的に入居者が外出しやすいよう車椅子、車等を利用して、施設、公園レストラン等入所者の楽しめる機会作りによりホームとして取り組んでいる。
4. 入居者と家族との交流支援						
39	81	○			入居者の家族の訪問・宿泊は自由であり、訪問しやすい雰囲気が感じられる。訪問時にはお茶を出すようにしている。春、夏のホームの催しに家族を招待するなど交流の機会を積極的にもたれている。	訪問時に日常生活の様子が分かっていたように共有スペースに催しの写真を掲示している。
III ケアサービス 30項目中		計	25	5		

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
<b>IV 運営体制 1. 事業の統合性</b>						
40	83	○			施設長・所長・ユニットリーダーでミーティングを行い運営理念からホーム運営がずれていないか常に検討している。日々のホーム内で運営理念を反映させた質の向上が行われるよう配慮している。	ホーム運営に現場職員の意見も反映できるよう施設長・所長・ユニットリーダー・の日々の協力体制の継続を期待する。
		法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、職員の意見も反映させながら共に運営に取り組んでいる。				
<b>2. 職員の確保・育成</b>						
41	87	○			入居者の生活リズムに合わせた支援が行えるよう勤務体制を4パターンにし勤務ローテーションでできるような配慮がなされている。開所よりユニット間の職員ローテーションは、実施していないが、今後入居者の安定した生活を守りつつ検討する予定である。	
		入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。				
42	89	○			月1回のミーティングの中で勉強会を設けているが、非常勤・パート職員が多く全員参加には至っていない。事業所として外部研修参加は、出勤扱いで研修参加費・交通費を出す用意がある。	職員が何を望んでいるのかを十分把握し、職員の習熟度・経験度に応じた研修計画を立案実施されることが望まれる。
		職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。				
43	91	○			施設長は普段から職員が相談しやすい雰囲気を作っている。1階・2階のスタッフの交流も十分にあり1階・2階入居者が自然に交流できるよう映画鑑賞会など行事を検討したり情報交換も十分に行っている。	今後も1階・2階の職員間の連携を十分図ることで入居者交流に支障をきたさないようまた、ホーム内の雰囲気格差が生じないように配慮されることを期待する。
		職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)				
<b>3. 入居時及び退居時の対応方針</b>						
44	95	○			開所後1年未満で現在のところ退所の事例がない。退居に至るまでには、十分家族と話し合いを持ち納得を得た上で退去先の支援を検討している。	入退居に至るまでの一連の流れ・基準を作成し職員のみでなく、家族会などを利用し家族へも入退居基準を周知させると入居者・家族の不安が少なくホームの生活を楽しめるのではないかと期待する。
		退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。				

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
4. 衛生・安全管理						
45	98	○			購入した食品はできる限りその日のうちに使い切るなどホーム全職員で清潔や衛生に関して日々守っていくためのルールが決められている。	
46	102	○			事故があった際には、事故報告書を作成し、事故の原因・問題点・再発防止対策の話し合いを行っている。事故対応マニュアルを作成し職員への説明を行い周知徹底を行っている。	事故に関しても予測して対応を検討し予防的な対応しておく必要があり今後のホームの運営により方向付けができるのでは。事故予防についてのマニュアルを充実させることでより一層の再発防止を徹底させることを期待する。
6. 相談・苦情への対応						
47	106	○			重要事項説明書にて入居時に苦情相談窓口の説明を行っている。苦情が寄せられた場合の苦情への対応や対策検討への取り決めがあり速やかな対応ができる取り組みがある。	
7. ホームと家族との交流						
48	107	○			毎月入居者の近況報告をし家族がホームでの暮らしを知ることができるよう個人の写真をアルバムに整理しホームでの生活がわかりやすいように取り組んでいる。	家族が入居者の一番の代弁者であることをホーム側より積極的に伝えることが大切であり、家族会を定期的に設け参加を促し、家族から意見や要望を気軽に伝える事ができる場を設ける取り組みに期待する。

項目番号 第三者 自己	項目	できている	要改善	評価困難	判断した根拠や理由	特記事項(良い点、改善点)
8. ホームと地域との交流						
49	112	○			行事参加を近隣住民や学校に呼びかけ、入居者の楽しみや活動の機会が広がるような取り組みがなされている。	行事参加を機会に日常的に近所の人たちに立ち寄ってもらえるような雰囲気作りや交流が持てるよう入居者が地域に溶け込める取り組みに期待する。
50	114	○			開所後1年未満だが、近所のスーパーへ入居者と共買い物へ行ったり、近隣へ食事に行くことで、顔馴染みの関係ができつつある。	入居者の日々のあたりまえの生活を送れよう近隣施設、店舗、公共施設等への働きかけの継続を期待する。
51	115	○			入居者に支障のない範囲での見学やボランティアの受け入れを行っている。	今後も見学やボランティアの受け入れを継続し地域住民へ認知症への理解を深めてもらえるようなより一層の取り組みを期待する。
IV 運営体制 12項目中		計	11	1		

- (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。  
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。